

パレスチナ問題を通して考える 教育の可能性と課題

開催日：2025年10月4日（土） 14:00～17:00

会場：池袋キャンパス 14号館3階 D301教室

対象者：本学学生、教職員、校友、一般（参加無料）

シンポジウムの詳細と参加申込はこちら
要申込 締切：10月3日（金）

大会詳細



参加申込



イスラエル軍によるガザ地区への攻撃は、多くのパレスチナ人の生命を奪い、人々の生活を破壊し続けている。激しい空爆と絶望的な飢餓、繰り返される軍事行動といった光景をまえに、中東に生きる人々への私たちの理解と共感が試されている。教育はその土地で暮らす人々の生活様式や大切にしているものを後世世代に伝達する役割を持つ。異なる文化や価値観をもつ他者をいかに理解し、共生していくことができるのか。この困難な課題に、教育はどのように応えたらよいのか。パレスチナ問題に詳しい研究者、実践者と紛争課題や地域課題に取り組む研究者を招き、教育の可能性と課題について検討する。

講師（敬称略）



鈴木 啓之 東京大学大学院総合文化研究科特任准教授

『蜂起＜インティファダ＞：占領下のパレスチナ 1967-1993』（東京大学出版会、2020）他、著書論文多数。パレスチナ問題の歴史的経緯と現状の課題を読み解く。



金子 由佳 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン海外事業部、本学兼任講師

現在、上記団体のシリアおよびガザ開発・緊急支援事業担当。ガザ地区や西岸地区での人道支援から見えてくる援助の限界とNGOの役割についてお話いただく。



山崎 瑛莉 上智大学学事局 Sophia Future Design Platform 推進室
University Education Administrator、本学兼任講師

アフリカ地域での開発教育を研究。アフリカとパレスチナ、それぞれの地域が抱える歴史的・政治的課題を踏まえ、教育の可能性と課題について問題提起する。

進行：越川 葉子 東京未来大学こども心理学部准教授・本学兼任講師

挨拶：石黒 広昭 立教大学教育学会会長・本学教育学科特別専任教授

プログラム

14:00～14:10 開会挨拶・趣旨説明・登壇者紹介

14:10～15:40 講師のお話

（15:40～15:50 休憩）

15:50～16:20 登壇者同士によるフリートーク

16:20～16:50 登壇者とフロアとの話し合い

16:50～17:00 閉会挨拶

共催：

立教大学文学部教育学科・
大学院文学研究科教育学専攻

お問い合わせ：

立教大学教育学会事務局

rera@rikkyo.ac.jp